

概要・目的

年間を通じて多くのフルーツが収穫できる紀の川市。なかでも八朔の生産量は日本一を誇ります。しかし、若い世代にはあまり人気がなく「にがい」「皮を剥くのが面倒」など負のイメージが持たれています。「紀の川はっさくエール」により、若い世代に対し正のイメージを広げるとともに、新たな名産品として市内商工業の活性化を図ります。

説明

紀の川はっさくとは

生産量日本一「紀の川はっさく」のブランド化は多くのメディアでとりあげられ、市場にも少しずつ認知度が向上しています。シールやステッカーは、農協、卸売り、農家の皆さんの協力により出荷段ボールや小売の袋に貼付していただいています。

なぜクラフトビールが



試金石として今年9月にリリースされた紀の川市産桃を使ったクラフトビールは、紀の川市内において販売3日で完売しました。クラフトビール市場は年々拡大しており、若い世代に対しても注目度が高い商品です。

ポイント

①ラベルデザイン

デザインは、市内にある近畿大学和歌山キャンパスの学生の皆さんから公募し、市のLINE公式アカウントのアンケート機能を使用し市民の皆さんに選考していただきました。

②販売店ファンディング

自治体が行う新しい名産品創出の手法として、製造者と販売店を繋ぎ全体をプロデュースする「販売店ファンディング」により実施します。

ハッサクプロジェクトと紀の川市

東洋大学の研究のシーズ（特許第6557893号）に基づき、ハッサクの果皮を原料とした熱中症対策に有効とされるオーラプテンの性質を発信。熱中症被害の社会課題解決とハッサクを中心とした商品作りによる地域活性化を目指すプロジェクトに紀の川市は参画しています。

また、プロジェクトの中核である(株)和環、東洋大学とは令和3年3月に連携協定を締結しました。



角型ステッカー

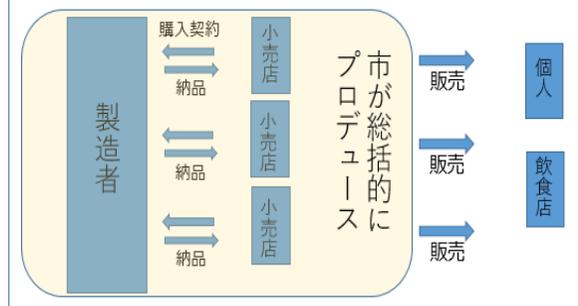


のぼり



丸型シール

しくみ



③売上の一部が農業振興に

売上の一部は、寄付金として紀の川市の農業振興に役立てられます。